

新たな感染症とともに ワクチンに関するQ&A



本号では、5～11歳へのコロナワクチンの最新の情報をお伝えし、少しでも保護者の皆様、学校関係者の皆様の疑問や不安に答えたいと考えています。

ワクチン接種に関しては、納得して結論を出していただけると嬉しいです。

新型コロナウイルス感染症対策検討会議

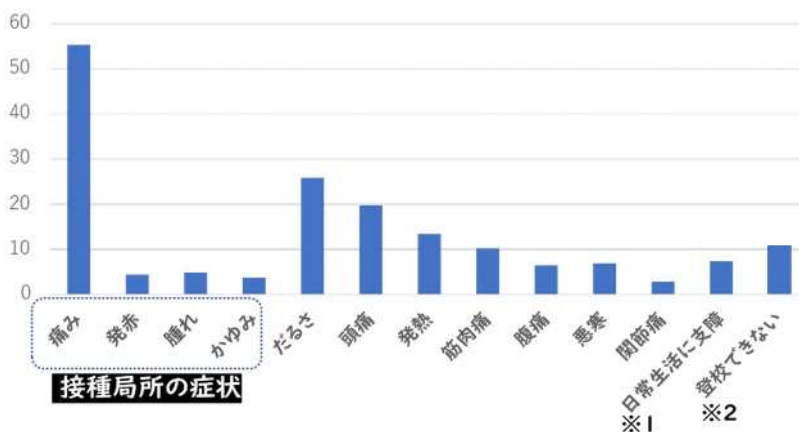


Q1 子どもにも新型コロナウイルスのワクチンは効きますか？

5～11歳における発症予防効果は、デルタ株では2回接種後に90%を超えると報告されました。しかしオミクロン株には成人も含めて効果が落ち、この年代においては2回接種後14～67日で51%でした。重症予防効果は、74%と比較的保たれているようです。

Q2 子どもにはどんな副反応が出るのでしょうか？

5-11歳における2回接種後の副反応の割合

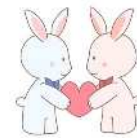


接種局所の症状

対象：米国でファイザー2回目を接種した29899人
接種0-7日後の集計(その後全員が回復)
※1 腕の痛みで着替えが困難、など ※2 発熱で学校を欠席、など

出現する副反応は、12歳以上と同様です。1回目よりも2回目の接種後に副反応が出やすくなることも同様です。

懸念されていた「心筋炎」については、100万人あたり男子4.2人、女子2.0人で、その発生率は、12歳以上と比較して少ないと報告されています。



Q3 効果はどれくらい続きますか？

小児用ワクチンは含有されている有効成分を成人の3分の1量に減らして副反応は少なくなりました。しかし、その分、効果の持続期間が短い可能性も指摘されており、その場合は早々にブースター接種(3回目)が必要になります。

実際に5～11歳では、2回目接種後から約1か月で60%から10%台まで低下したという報告もあり、これらの状況から、一部の国や地域で5～11歳の接種を見合わせているところもあります。

今後、小児ワクチンに関する研究報告は、接種が先行している諸外国から増えてくることが考えられますので、検討会議でも注視しつつ、必要に応じて情報発信を行っていきます。



Q4 諸外国の小児の感染状況やワクチン接種状況はどうなっていますか？

米国では新型コロナウイルス感染症によって、多くの子どもたちが死亡しています。そのような中、昨年11月より5～11歳のワクチン接種が開始されましたが、3月現在においても、接種率は3割以下で頭打ちの状況にあり、欧州も接種率は高くありません。世界中の保護者が悩んでいる状況が見て取れます。(下表参照、QRコード補完資料あり)

	小児感染者数	小児死亡者数	12～17歳ワクチン接種率	5～11歳ワクチン接種率
アメリカ	11,801,021	1,755	57.0%	26.9%
EU			22.3%	10.8%
フランス	4,471,799	56	66.9%	7.2%
韓国	2,152,217	10	63.4%	2022年2月承認
日本	1,314,870	8	75.3%	2022年2月承認

Q5 持病があるのですが、接種した方がよいですか？



国内外の知見から、新型コロナウイルスにかかると重症化しやすい基礎疾患(持病)が分かっています。普段から感染で病状悪化のリスクがあると主治医に言われているお子さんのワクチン接種にあたっては、主治医に事前に相談の上、検討してください。

日本小児科学会は、接種を考慮すべき基礎疾患のリストを挙げています。(QRコード補完資料あり)

Q6 新型コロナに感染した場合、その後のワクチン接種はどうしたらよいですか？



一般的に感染後のワクチン接種がその後の感染に対する防御をさらに高めることが知られています。未接種の状況で感染したとしても、その後体調が改善した場合は、特に長い期間を空けることなく接種は可能です。

初回接種(1,2回目)を終えた後に感染した場合では、感染してからブースター接種(3回目)までの間隔について、暫定的に3か月を一つの目安にすることとされました。(厚労省HPより)

感染後にワクチン接種を行うと、副反応が出やすいのではないかと懸念もあり、いくつかそのようなデータも出ていますが、子どもに関して、現状は結論が出ていません。

Q7 痛みや副反応を怖がる子どもたちへ、アドバイスはありますか？

子どもたちが罹患した際は、長期の出席停止などの不利益が大きく、「感染する確率が少しでも下がるなら接種したい」と考えるお子さんもいるでしょう。メディア情報や接種後に熱を出した家族を見て、接種することを怖がるお子さんもいます。

現時点で接種による痛みや副反応に対する不安や迷いがある場合には、あせって結論を出す必要はありません。不安が強い状態でワクチンを接種することによって、痛みやだるさが長引くなど、思わぬ反応が生じることがあります。家庭内でどうするかを話し合い、本人も保護者も納得の上で決めることが大切です。

さらなる情報については

QRコードへ！



これまでに発行したリーフレットは、市学校保健課、各学校(園)のHPで見ることができます。
【事務局】富山市教育委員会 学校保健課(443-2136)